

メールマガジン：自然をおそれず、あなどらず


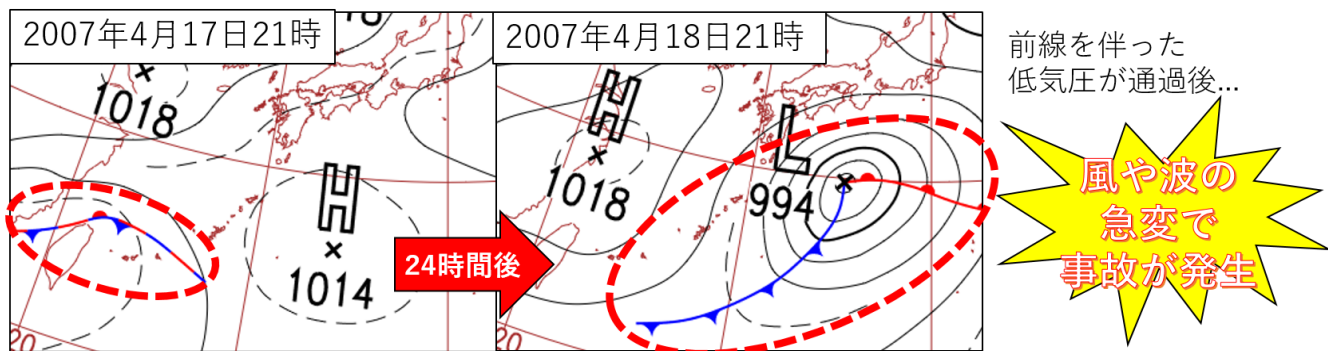
発行：県教育庁保健体育課・沖縄気象台

海辺でのレジャーにご注意を！ ～ニンガチカジマーイ～

これからの季節は風や波の急変にご注意を！

これからの時期、沖縄では伝統行事の「浜下り（ハマウイ）」など海に親しむ機会が増えてきますが、春先は風や波の急激な強まり・高まりに注意が必要です。

2007年4月には、読谷村残波岬や恩納村瀬良垣付近の海岸で潮干狩り中の大人3名が急に襲来した高波にさらわれ亡くなるという痛ましい事故がありました。当時の天気図（下図）では、前線を伴った低気圧が発達しながら速い速度で沖縄地方を通過していました。那覇の観測では18日9時の時点では南の風8m/sでしたが、14時には北の風14m/sと急激に強まりました。このため、海上でも風が強まり、波も急激に高まったことが事故につながったと考えられます。



沖縄で古くから恐れられてきた「ニンガチカジマーイ」

このような春先に起こる風や波の急変を沖縄地方では「ニンガチカジマーイ（ニンガチ：旧暦の二月、カジマーイ：風回り）」と呼び、古くから漁師などの間で恐れられてきました。「ニンガチ」にあたる春先は、低気圧やこの低気圧からのびる寒冷前線が沖縄地方を通過するようになります。低気圧が発達しながら速い速度で進むため、前線通過前の南よりの風で穏やかだった海が、低気圧や寒冷前線の通過後、急に強い北風となり、海上は波が高くなって、しけの状態に急変することがあります。これが「ニンガチカジマーイ」です。

この影響で、風の穏やかなうちに潮干狩りや海のレジャーに出かけた人が、急激に高まった波にさらわれたり、ボートが転覆したりといった事故が起きています。

お出かけの前には天気予報などをチェック！

「ニンガチカジマーイ」による天気の急変は、事前を知ることができます。前線や低気圧の接近によって風や波の急な変化が予想される場合、気象台では天気予報や「高波と強風に関する気象情報」、波や風に関する「警報」、「注意報」などを発表して注意喚起を行っています。

事前に“知っている”ことで災害を防ぐことができます。テレビやラジオ、気象庁ホームページで得られる気象情報を、自分や周りの大切な人を守るためにご活用いただけたらと思います。

今日 19日(水)			
☁ → ☔		ポイント① 南よりの風から北の強い風に変化	
南東の風 後 北の風 強く		ポイント② 波の急な高まり	
曇り 後 雨		1. 5メートル 後 4メートル	
00-06	06-12	12-18	18-24
-	20	50	30
朝の最低		日中の最高	
-		18	

上図：気象庁HP「天気予報」の例

最新の気象情報をチェック！

気象庁HP 



南大東小中学校で津波避難ワークショップを開催しました

南大東小中学校では、中学2年生を対象に「津波避難ワークショップ」を実施しました。南大東小中学校からの報告を掲載します。

南大東島の中学生は、高校進学に伴い島を離れます。そのため、地震の少ない南大東島の生徒に津波避難の疑似体験をしてもらうことで、地震・津波に対する防災意識を高めるきっかけになればと考え、防災教室と題し、令和3年11月16日に南大東島地方気象台の職員を招き、「津波避難ワークショップ」を実施しました。ワークショップには理科の授業の2時間（50分授業×2）を活用して実施し、生徒17名と教職員2名が参加しました。

ワークショップのスケジュールは以下のとおりです。

【1時間目】

- ① 津波避難シミュレーションのルール説明
- ② 津波避難シミュレーション
- ③ シミュレーション結果の発表準備

【2時間目】

- ④ 各グループの発表、意見交換
- ⑤ 解説「地震・津波から身を守るために」
- ⑥ 質問
- ⑦ リフレクション（振り返り）



津波避難シミュレーションは、生徒5グループと教職員1グループに分かれて行いました。各グループともに高い所を目指してコマを進めます。グループ内の意見をうまくまとめて、避難場所としていくつかある候補の中から目標地点を選択していました。生徒はルールの飲み込みが早く、シミュレーションの進行はスムーズでした。その結果、全てのグループが津波浸水予測域の外に出ることができました。

発表・意見交換では、各グループから、「川が危ないと思い、橋のない道を選んだ」「食料がありそうな団地を目指して避難した」「声を掛けながら避難した」等の意見があり、避難判断の理由についてもしっかりとした発表がありました。その後、気象台職員が津波の性質や避難に関しての解説を行い、「地震の揺れがおさまったら、すぐに避難を開始し、より高い所へ向かう」ことの大切さを伝えました。

リフレクションの時間には、「とりあえず高い所に逃げれば良いと思っていたけど、ある程度高さがあっても津波がくることもあるから、ちゃんと場所を選んで避難する」「地震はいつ起こるかかわからないから、避難ルートを前もって確認しようと思った」「地震の揺れがなくても津波が来るときがあるので、津波警報が出たら避難する」といった意見や感想が出されました。

避難訓練は学校で毎年行っているが、今回のような模擬的なシミュレーションをすることは今後、社会生活していく上でも必要な力で、適切な判断と迅速な行動ができる力を教育活動の中でも養っていききたい。

メールマガジンで取り上げてほしいテーマや、各学校で行った防災に関する取組などがありましたら、次の連絡先までご連絡をお願いします。

沖縄県教育庁保健体育課

学校安全・給食班

沖縄気象台防災調査課 大城 隆

TEL : 098-866-2726

Email : aa316008@pref.okinawa.lg.jp

TEL : 098-833-2186

Email : okichosa@met.kishou.go.jp

